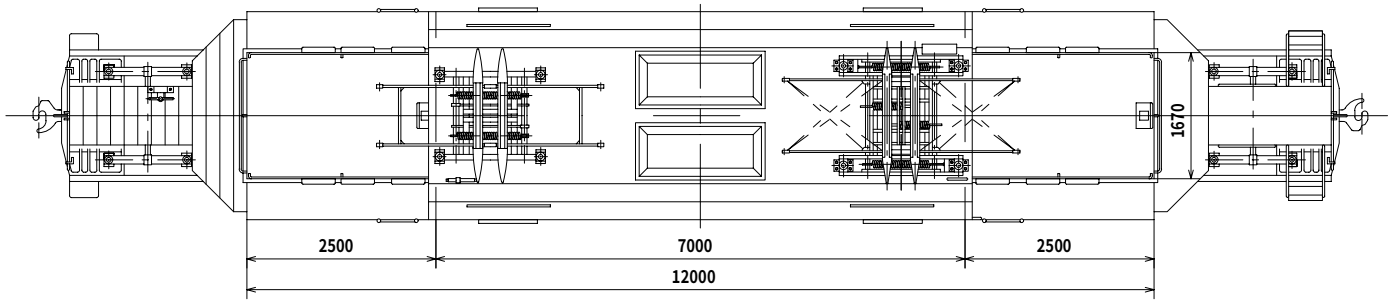
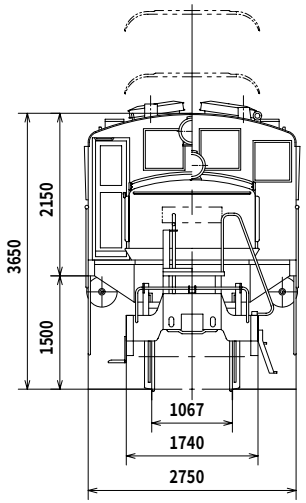
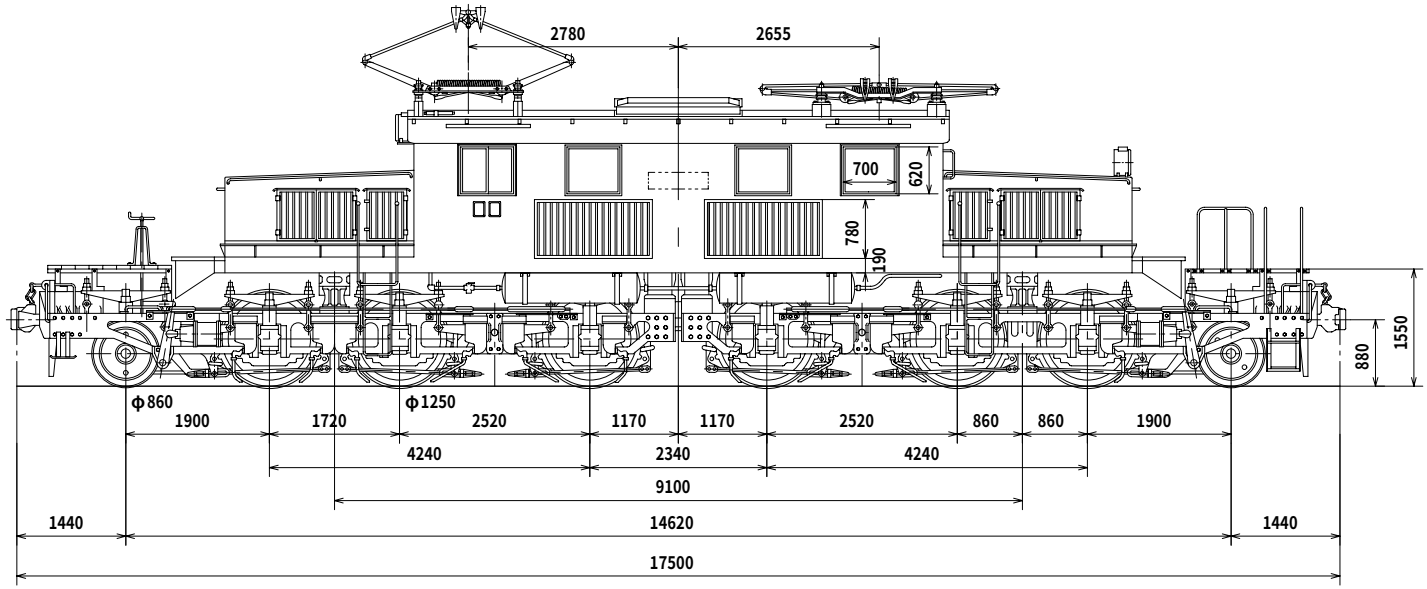
国鉄　EF13形電気機関車　形式図

1944年から1946年にかけて31輌誕生した戦時設計の貨物用機関車　蒸機のD52と並び称されるロコである
資材をぎりぎりに節約して設計された結果国鉄EF級では最初の凸型車体となり、いわば日本の暗黒時代の花形機として特異な姿態で活躍
しかし、1952年からは旧EF58の車体に付け替えられて平凡なスタイルになってしまい往時の異色機ぶりを見ることはできない
図は凸型の二つの姿を1枚の図にしたもの
すなわち、左半分は戦時設計のまま、右半分は内部の装備改造と共に変化した後の姿
その差はパンタ、デッキ、左は床が木製、ヘッドライト位置、運転室窓などであるが、いずれの場合においても、各車で色々な相違点があったようである